

平成 26 年度 博物館講座 学芸員が語る、富士山の魅力再発見！ 2015. 2. 18 (Wed)  
(於：富士市立博物館会議室 19:00~20:30)

## 平安人が仰いだ富士山 一貞觀噴火前後の人とモノの動き一

藤村 翔

### はじめに

- ・過去 10 万年以上にわたって噴火活動を繰り返してきた富士山であるが、2200 年前頃から始まる新富士火山新期のなかでは、平安時代は活動の頻発期。【図 1】
- ・当時の人々に多大な影響を与える、現代にも通じる地形や人々の信仰の変化を促した当該期の富士山周辺の状況について、おもに南麓（古代富士郡）の視点から考える。

### 1. 富士郡家の設置と隆盛

#### （1）伝法古墳群の展開と郡家の設置

##### 古墳と郡家

- ・5 世紀末頃の伊勢塚古墳の築造以後、伝法沢東岸で古墳群が発達（～8 世紀初頭）。【図 2】
- ・鍛冶生産に関与した渡来系集団や馬匹生産集団とのかかわり（鈴木 2010、大谷 2010 等）【図 3】
- ・8 世紀代にも以前の墳墓への祭祀や郡司クラスの有力者を埋葬…伝法古墳群を営んだ氏族の子孫が郡家設置に主体的役割を果たす（植松 2003、藤村 2014 など）【図 3・7】

#### （2）東平遺跡周辺の隆盛【図 4】

##### 東名富士 IC 周辺【図 5】

- ・8～9 世紀前半までに、250 軒以上の堅穴建物と 60 棟以上の掘立柱建物が営まれる。
- ・整然と並ぶ倉庫群や官僚が身に着けた腰帶具、律令祭祀遺物（土製模造品・墨書き土器）、小鍛冶関連遺物が出土

…郡家関連の倉庫群と、官人や各種工人の集住集落が存在

##### 富知六所浅間神社周辺（三日市廃寺跡）【図 6】

- ・和田川湧水地周辺に、5 世紀後半以来水運とかかわる伝統的集落域が形成。
- ・8 世紀に使用された多量の瓦の廃棄、9 世紀後半に区画溝を有する三面？庇建物の造営。「て」「寺」「厨」墨書き土器、小鍛冶関連遺物など。

…8 世紀に大規模な瓦葺寺院が存在し、9 世紀後半以降には瓦を持たない建物が再建。

##### 郡家周辺の求心性【図 8】

- ・東平遺跡周辺に先進文物や人口が集中 ⇔ 伝統的な集落は衰退（佐野 2008 など）
- ・政治・宗教・交易のあらゆる面で富士郡の拠点集落として機能（藤村 2014a）

### 3. 平安時代の富士山噴火（延暦・貞觀の噴火）

#### （1）延暦の噴火

##### 文献にみる延暦の噴火

- ・延暦十九年六月（中略）癸酉（六日）。駿河國言す。去ぬる三月十四日より四月十八日（800 年 4

月11日～5月15日）まで、富士山の巔自ずから焼けぬ。晝は則ち烟氣暗暝にして、夜は則ち火花天を照らしき。其の聲雷の如く、灰の下ること雨の如し。山の下の川水は皆紅色なりきと。

・延暦廿一年正月乙丑（802年2月13日）。是日、勅すらく。駿河國相模國言す。駿河國富士山、晝夜炬燎し、砂礫は霰の如しとてへり。之をト筮に求むるに曰く。ここに疫さむと。宜しく兩國をして鎮謝を加え、ならびに經を読み以て灾殃を攘はしむべしと。（中略）五月、甲戌（802年6月22日）、相模國足柄路を廃し、管荷途を開く。富士の焼碎石が道を塞ぐを以つてなり。（中略）廿二年（803）（中略）五月（中略）丁巳（803年5月31日）、相模國管荷路を廃し、足柄舊路に復す。（以上『日本紀略』、小山2007・笠生2012より）

### 地質にみる延暦の噴火【図9・10】

・富士吉田市歴史民俗博物館付近を通る檜丸尾第2溶岩と、山中湖西側を通る鷹丸尾溶岩、東麓の須走口スコリア（小山2007など）、S-24-7スコリア（上杉編2003）…鷹丸尾溶岩と須走口スコリアについては12～13世紀とする見解もある（上杉2014など）

### 遺跡にみる延暦の噴火【図10】

- ・堰林遺跡（富士吉田市）：檜丸尾第2溶岩下から、7～8世紀頃の甕が出土（末木1998）
- ・北畠遺跡（山中湖村）：鷹丸尾溶岩下？から、12世紀の和鏡とガラス玉が出土（櫛原1995）

#### （2）貞觀の噴火

○貞觀二年五月甲寅（五日）。駿河國言す。富士山の上に五色の雲見ゆと。

○（貞觀六年七月）庚戌（864年7月2日）（中略）駿河國言。富士郡正三位淺間大神大山火、其の勢い甚熾、燒山方一二許里、光炎高廿許丈、大有聲如雷、地震三度、歷十餘日、火猶不滅、焦岩崩嶺、沙石如雨、煙雲鬱蒸、人不得近。大山西北、有本栖水海、所燒岩石、流埋海中、遠卅許里（約14.5km）、廣三四許里（約2～3km）、高二三許丈（6～9m）、火焔遂屬甲斐國界

○貞觀六年七月辛丑（864年8月22日）。甲斐國言す。駿河國富士大山、忽ちに暴火有り。崗巒を焼碎し、草木を焦す。土を鑿し石を流し、八代郡本栖、並びに割の両の水海を埋む。水熱くして湯の如く、魚鼈皆死に、百姓の居宅、海と共に埋れ、或いは宅有りて人無きもの、其の數記し難し。両の海より東にまた水海有り。名づけて河口の海と曰ふ。火焔赴きて河口の海に向ひき。本栖、割等の海の未だ焼け埋れざるの前、地は大いに震動して雷電暴雨あり、雲霧晦冥にして、山野弁ち難く、然る後に此の災異有りきと。

○貞觀六年八月己未（864年9月9日）。甲斐國司に下知して云ひけらく。駿河國富士山に火ありて、彼の國言上す。之れを著龜に決するに云はく、淺間名神の祢宜祝等、齋敬を勤めざるの致しし所なりと。仍りて応に鎮謝すべきの状、國に告知し訖んぬ。宜しく亦幣を奉りて解謝すべきなりと。

○貞觀七年十二月丙辰（865年12月30日）。勅して、甲斐國八代郡に淺間明神の祠を立てて官社に列ね、即ち祝祢宜を置き、時に隨いて祭を致さしめたまひき。是より先彼の國司言へらく、往年、八代郡に暴風大雨、雷電地震あり、雲霧晦冥して、山野を辨へ難く、駿河國の富士大山の西峯、忽ちに熾火有りて巖谷を焼き碎き。今年、八代郡の擬大領無位伴直眞貞、託宣して云はく、我は淺間明神なり。此の國に齋き祭らるを得むと欲し、頃年、國吏の爲、凶咎を成し、百姓の病死を爲す。然るに、未だ曾て覺悟せず。仍りて此の恵を成せり。早く神社を定め、兼ねて祝祢宜を任じ、宜しく潔め奉祭るべしと。眞貞の身、或いは伸びて八尺ばかり、或いは屈みて二尺ばかり、體を變へて長短をなし、件等の詞を吐き。國司、之をト筮に求むるに、告ぐる所、託宣に同じかりき。是に

於て明神の願に依り、眞貞をもって祝と爲し、同郡の人伴秋吉を称宜と爲し、郡家以南に神宮を作り建て、且つ鎮謝せしめき。然りと雖も異火の變今に止まず。使者を遣りて検察せしむるに、剣の海を埋めること千許町、仰ぎて之を見るに、正中最頂に社宮を飾り造り、垣四隅に有り、丹青石を以て其の四面に立つ。石の高さ一丈八尺許、廣さ三尺、厚さ一尺餘なり。石の門を立つると相去ること一尺、中に一重の高閣有り。石を以て構り營み、彩色の美麗言ふに勝ふべからず。望請はくは、齋き祭り、兼ねて官社に預らんと。從したまひき。(以上、『日本三代実録』小山2007・毎生2012より)

### 地質にみる貞觀の噴火【図11】

- 下り山、石塚、長尾山、氷穴の各噴火口から青木ヶ原溶岩が流出。溶岩は本栖湖と剣の海を埋め、剣の海は精進湖と西湖に分断された(高橋ほか2007・千葉ほか2007)。【図12】

### 遺跡にみる貞觀の噴火【図13~15】

- 上野原遺跡(富士河口湖町)：本栖湖東岸の溶岩下より、平安時代の土師器が出土(田代1998)
- 本栖湖底遺跡(富士河口湖町)：本栖湖東岸付近の水深10mより、古墳時代の土師器が出土(田代1998)
- 西川遺跡(富士河口湖町)：河口浅間神社西方に所在。「川」墨書き土器や転用硯、製塩土器片が出土。推定「河口駅」(杉本2013など)。

## 3. 噴火災害による人・モノの動きの変化

### (1) 延暦噴火による東海道の変化【図16】

802年、足柄道から箱根道へ。一年後に復旧…延暦噴火に関連する溶岩流は富士山北麓に流れ(檜丸尾第2溶岩)、東麓では火山灰(S-24-7)が降灰。御殿場市・小山町域でも集落は継続。  
→街道の被害は一時的なものであり、噴火の鎮静を待ち、短期間で街道の復旧を達成。

### (2) 貞觀噴火による中道往還への影響【図11・16】

- 朝霧から本栖を経て甲斐に到る中道往還は埋没。
- 「(新)若彦路」(富士河口湖町大嵐～鳴沢村～富士宮上井出)を代替路とする説(杉本2013)もあるが、氷穴火口列と溶岩の分布からは想定しがたい。  
→富士北麓を通る御坂道(鎌倉往還)や富士川ルートを重視。
- 富士川下流域周辺では、浅間林遺跡や破魔射場遺跡が成長。特に浅間林遺跡は9世紀後半以降の甲斐との交流の拠点となった可能性(田尾2008など)。【図17】  
…9世紀頃より、富士郡各地において物流・交易の拠点が分散化(藤村2014a)。全国的にも9世紀後半頃までに大規模集村型集落→小規模散村型集落へ移行(坂井2005など)【図18】

### (3) 新たな信仰の道の誕生

- 宗教的機能は貞觀五年(863)に定額寺となった「法照寺」(三日市廃寺・東平遺跡)でテコ入れが図られるものの、貞觀の噴火を防げず。
- 9世紀後半には富士山南麓の高地(村山浅間神社遺跡・岩倉B遺跡)で遺跡が見えはじめる。甲斐型土器、三河産の灰釉陶器、墨書き土器の保有。(佐藤・藤村2013)【図19】  
…山中を修行の場とした僧侶の存在。甲斐勢力とも関係(渡井2014)  
ex)都良香「富士山記」(9世紀後半頃)…同時期に富士山登頂した人物から伝聞した記述

(前略) …頂上に平地有り、廣さ一許里。其の頂の中央は窪み下りて、體炊飯の如し。飯の底に神しき池有り、池の中に大きなる石有り。石の體驚奇なり、宛も蹲虎の如し。亦其の飯の中に、常に氣有りて蒸し出づ。其の色純らに青し。其の飯の底を窺へば、湯の沸き騰るが如し。其の遠きに在りて望めば、常に煙火を見る… (後略)。

- ・11世紀末～12世紀以後、大宮城跡や浅間神社、山宮浅間神社において信仰関連遺跡が成立
- …末代上人の富士登頂（天承二年《1132》）→貞觀噴火とは間隙大きく、別の契機が存在（永保三年《1083》噴火《渡井 2014》、院政期における写・埋経活動と聖地整備）

## おわりに

- ・考古学的な遺跡動態を追うだけでは理由が見えづらい“富士郡内の勢力変化”も、富士山の噴火という“災害フィルター”を通すことで、噴火による交通路の断絶・代替、山体（浅間神）への信仰強化の必要性向上という一連の要因が見えてくる。
- ・今後は富士川上流域～甲府盆地、足柄路・箱根路・御坂道周辺の遺跡動態も併せ、富士山周辺全域で当該期の推移を検証する必要。
- ・平安時代の富士山噴火は、主要な交通路に溶岩流の被害を与えた確実な災害（国家成立以降は当該期のみ！）…当時の対応策を知ることは、未来の防災を考えるヒントにもなる

## 参考文献

- 上杉 陽 2014 「鷹丸尾溶岩A流はいつ流化したのか？=現中山湖はいつ誕生（再生）したのか～火山灰層序学的研究史～」『山梨地学』56号
- 植松章八 2003 「静岡県の鎧帶具」志村博ほか『東平遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会
- 大谷宏治 2010 「古墳時代後期～終末期の古墳について」『富士山・愛鷹山麓の古墳群』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第231集 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 小山真人 2007 「富士山の歴史噴火総覧」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 櫛原 功一 1995 「中山湖村北畠遺跡出土の『松鶴鏡・ガラス玉』」『富士吉田市史研究』第10号 富士吉田市
- 坂井秀弥 2005 「国府と郡家—地方官衙からみた実像」吉川真二ほか編『列島の古代史 ひと・もの・こと 3 社会集団と政治組織』岩波書店
- 笛生 衛 2012 「富士山の古代祭祀とその背景—火山活動・災害と古代の神觀・祭祀—」『山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査報告書—富士山信仰に関わる調査報告—』山梨県教育委員会
- 佐藤祐樹・藤村 翔 2013 「考古学からみた富士山の噴火と地域社会の変動—古墳時代・平安時代を中心に—」『2012年度静岡県考古学会シンポジウム 考古学からみた静岡の災害と復興』静岡県考古学会
- 佐野五十三 2008 「駿河国富士郡における8世紀代の移住と集住」『静岡県考古学研究』No.40 静岡県考古学会
- 末木 健 1998 「遺跡の概要」『富士吉田市史』史料編1 自然・考古 富士吉田市
- 末木 健 2007 「甲斐の古道 一若彦道」『山梨県考古学協会誌』第17号 山梨県考古学協会
- 杉本悠樹 2013 「延暦・貞觀の富士山噴火—古代の富士山の溶岩流と火山灰災害—」『自然災害と考古学～過去からの警告～』平成24年度やまなし再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム資料
- 鈴木一有 2010 「駿河東部における無袖石室の史的意義」『東日本の無袖石室』雄山閣
- 田尾誠敏 2008 「静岡県における甲斐型土器の流通」『古代の交易と道 研究報告書』山梨県立博物館調査・研究報告 2 山梨県立博物館
- 高橋正樹ほか 2007 「富士火山貞觀噴火と青木ヶ原溶岩」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 田代 孝 1998 『山梨県西八代郡上九一色村 遺跡詳細分布調査報告書』 上九一色村

- 千葉達朗ほか、2007「航空レーザー計測にもとづく青木ヶ原溶岩の微地形解析」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 藤村 翔ほか、2011「伝法 国久保古墳の調査」藤村編『平成13年度 富士市内遺跡・伝法 国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会
- 藤村 翔 2014a「富士郡家閨連遺跡群の成立と展開～富士市東平遺跡とその周辺～」『静岡県考古学研究』No.45
- 藤村 翔 2014b『富士山の下に灰を雨らす—富士の噴火と古墳時代後期の幕開け—』富士市立博物館
- 町田 洋 2007「第四紀テフラからみた富士山の成り立ち：研究のあゆみ」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 宮地直道 2007「過去1万1000年間の富士火山の噴火史と噴出率、噴火規模の推移」『富士火山』山梨県環境科学研究所
- 渡井英誉 2014「考古学的見地からの富士山信仰について—静岡県の事例を中心として—」『信仰の山 富士山』山梨県埋蔵文化財センター・山梨県立博物館富士山総合学術調査研究講演会 資料集

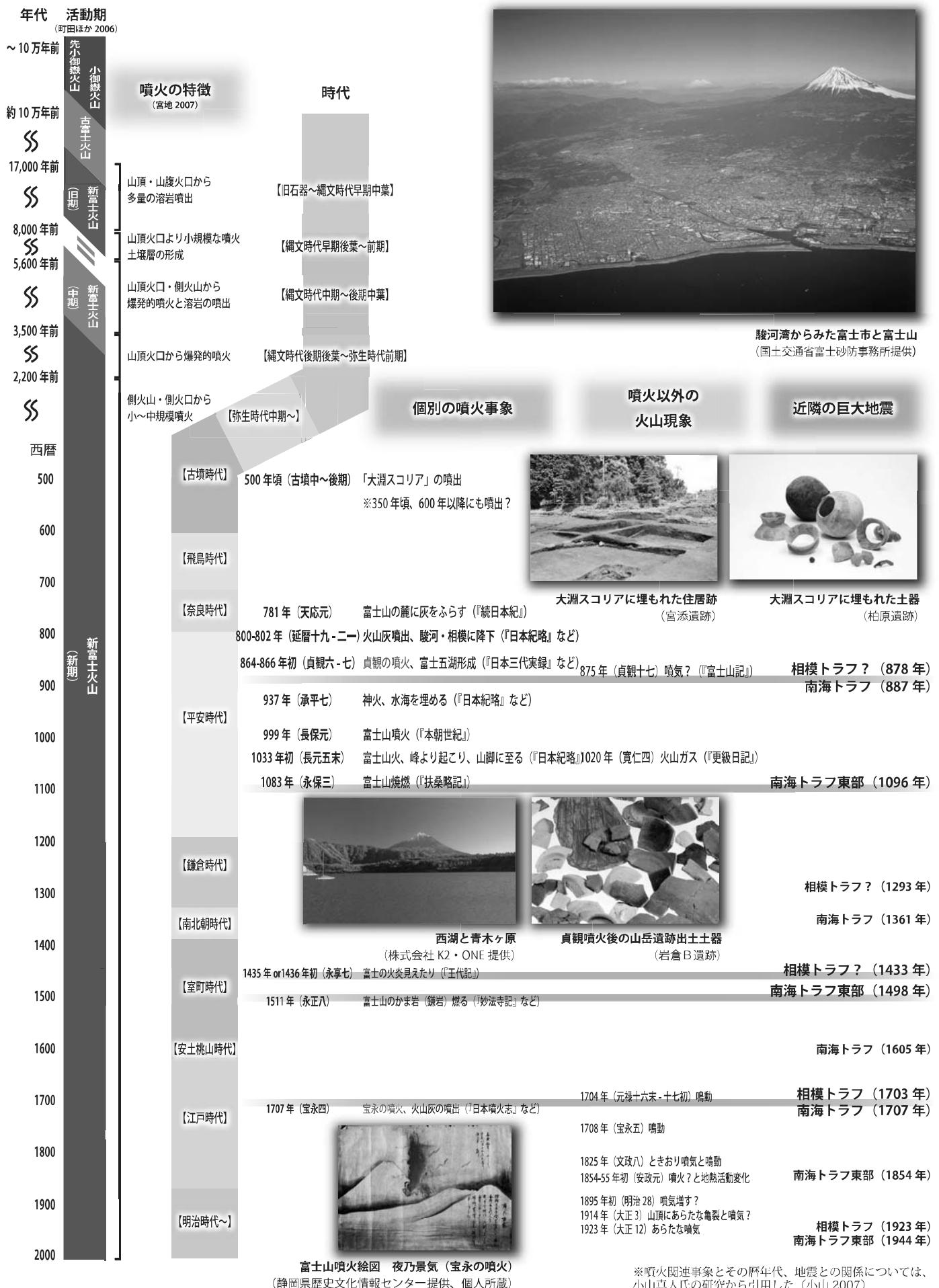


図1 富士火山の活動年表 (藤村 2014b より)

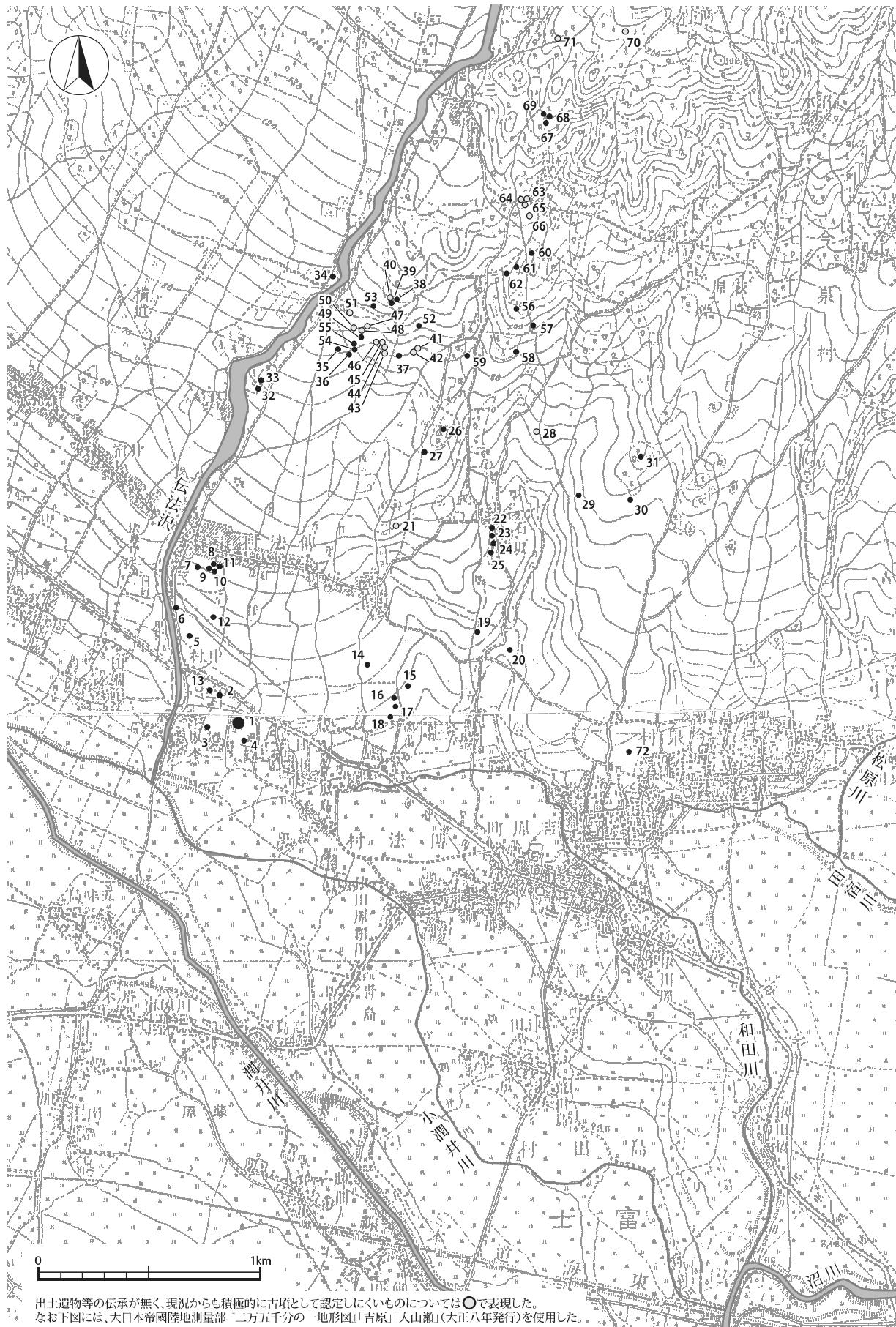
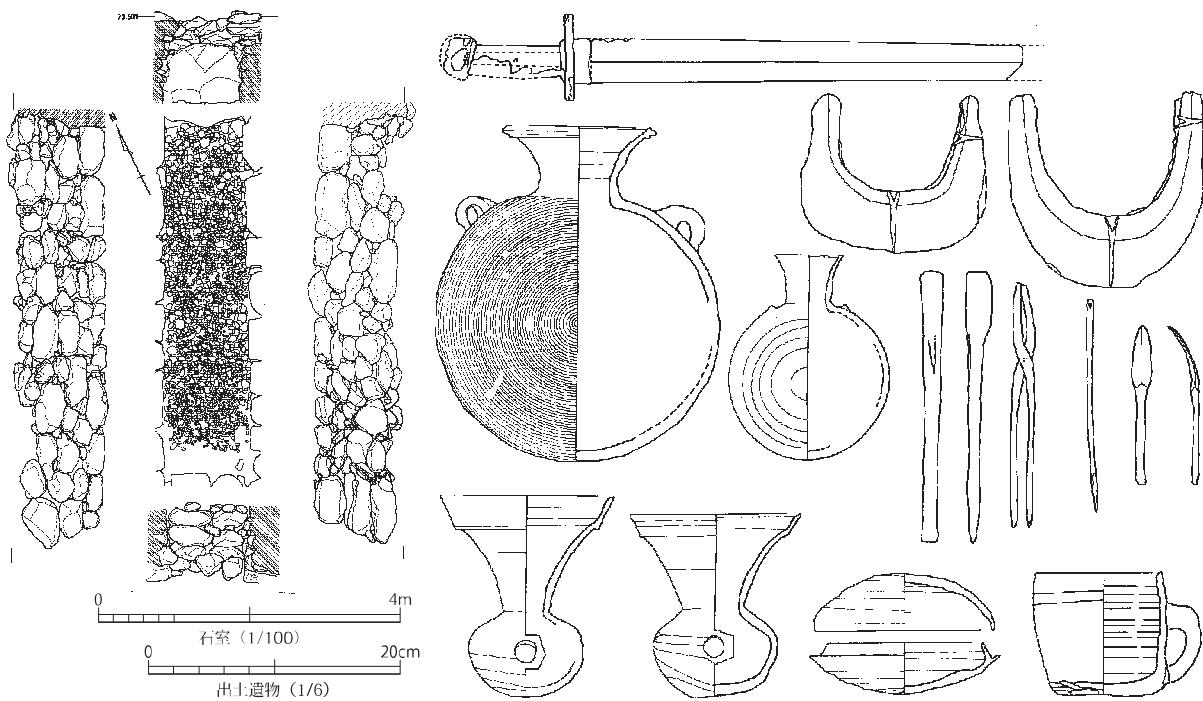


図2 伝法地区周辺の古墳分布 (1/25,000、藤村ほか 2011 より)



中原第4号墳 石室平面図・出土遺物実測図

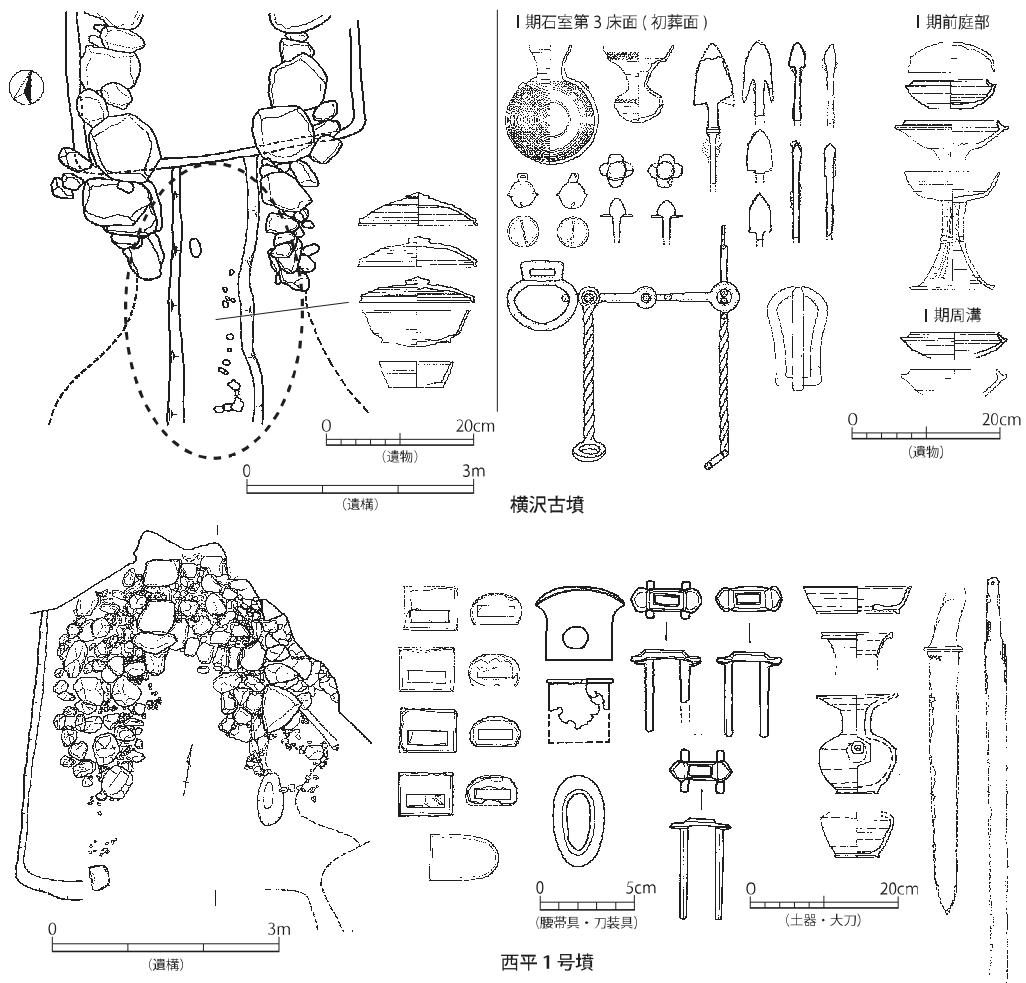


図3 伝法古墳群の主要古墳

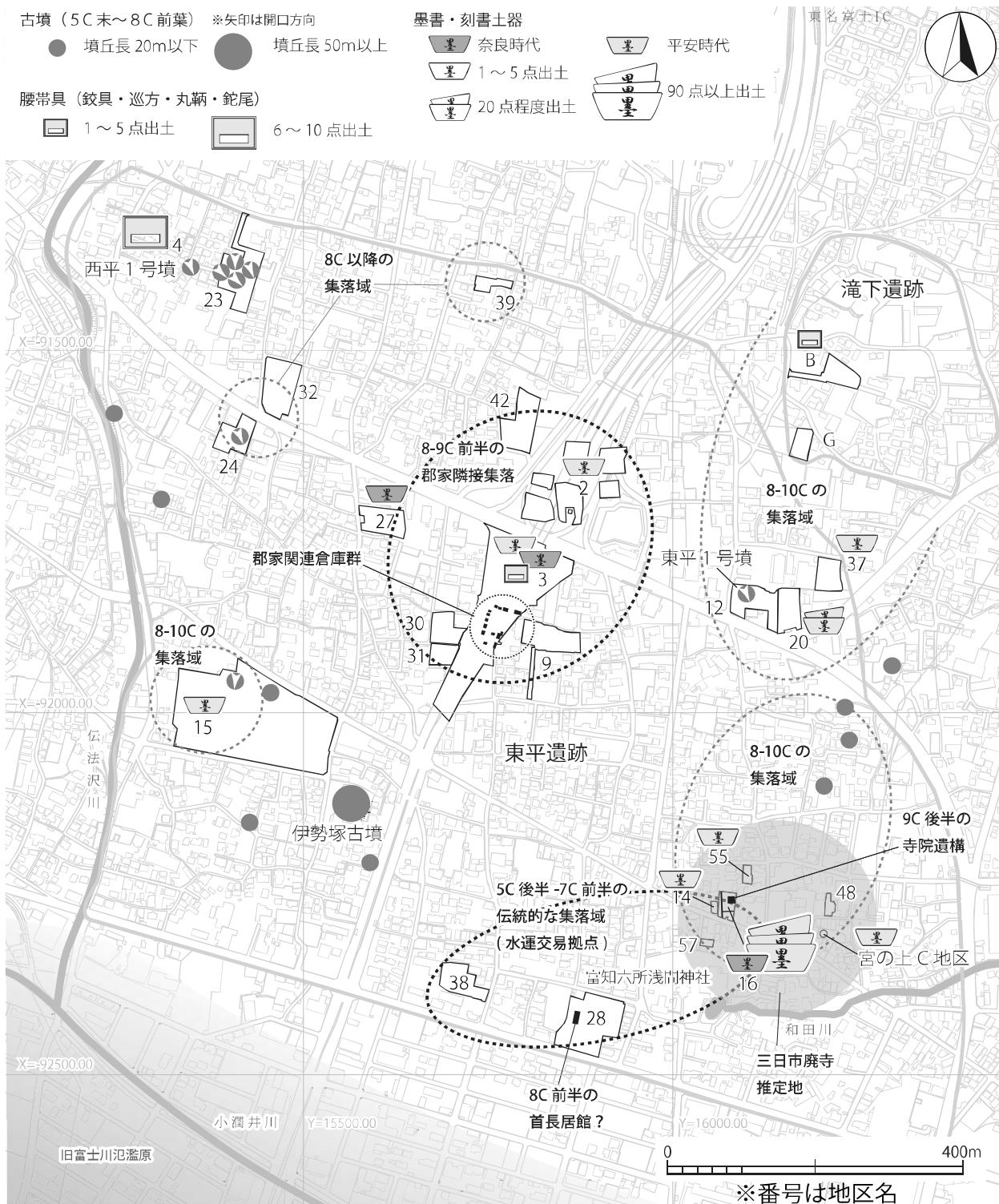


図4 東平遺跡全体図（藤村 2014a より）



図5 東平遺跡・東名富士I C南周辺の状況（藤村 2014a より）

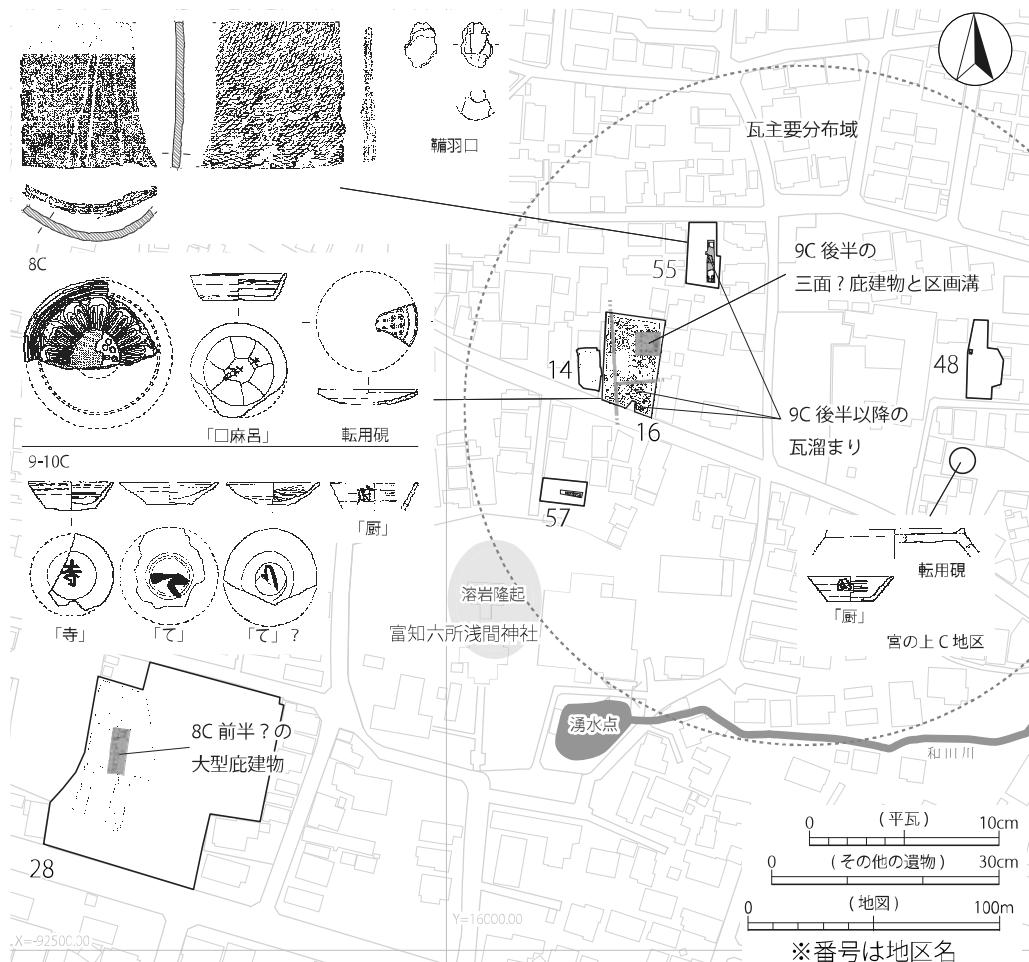
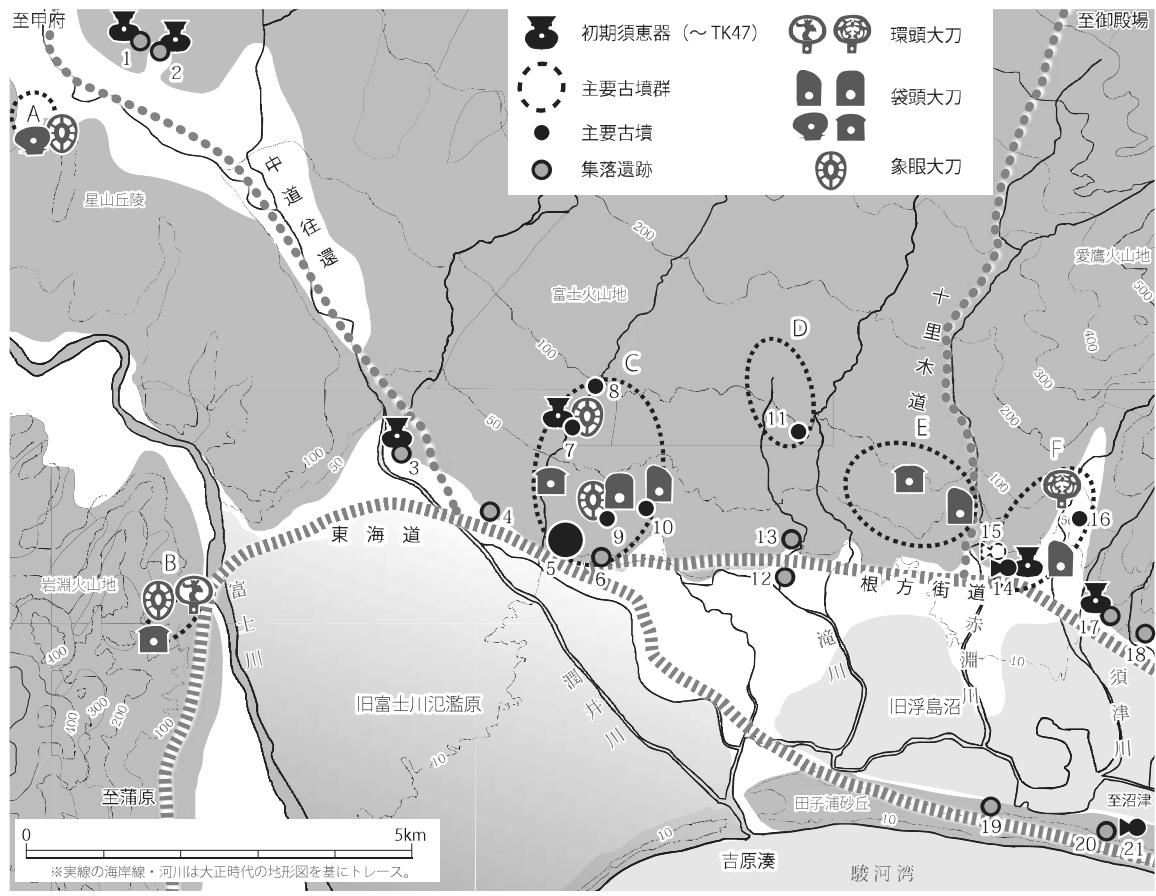
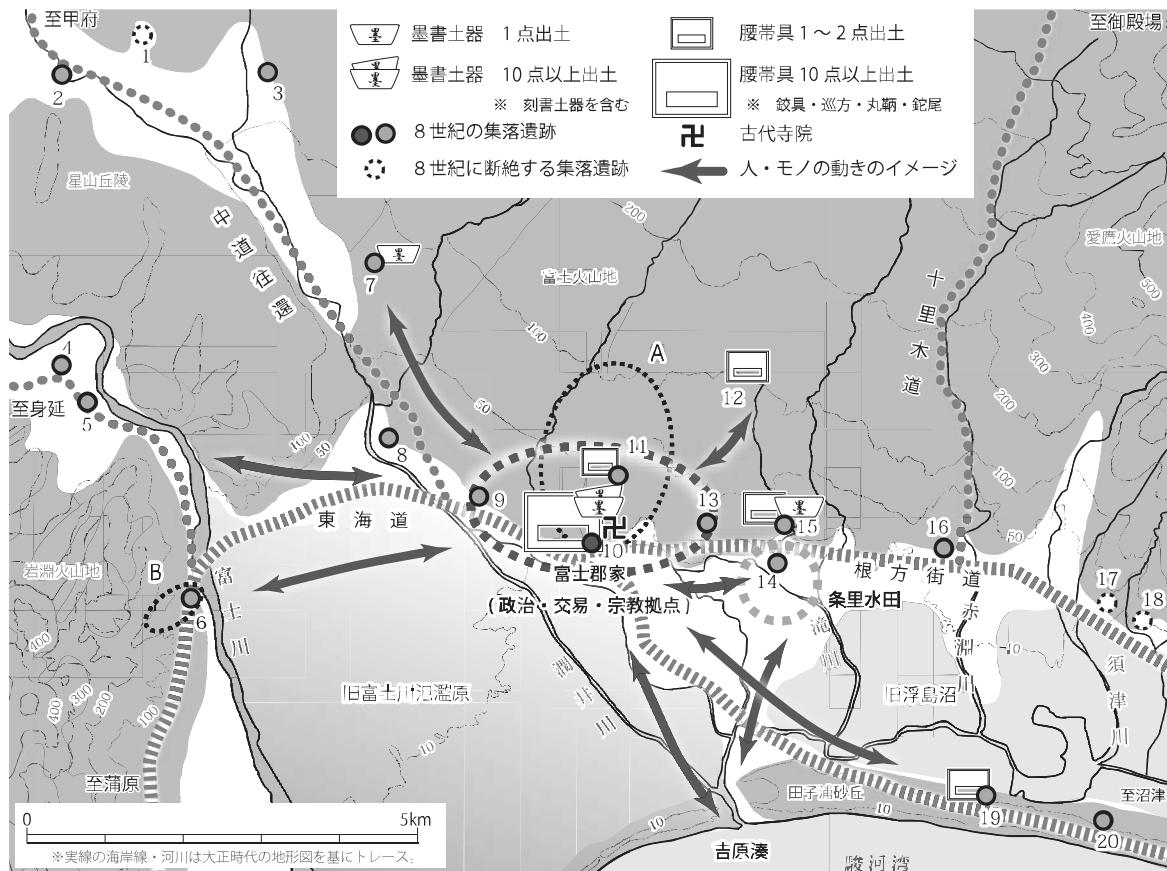


図6 東平遺跡・富知六所浅間神社周辺の状況（藤村 2014a より）



A. 別所古墳群 B. 岩淵・木島古墳群 C. 伝法古墳群 D. 一色古墳群 E. 比奈・富士岡古墳群 F. 中里・須津古墳群  
 1. 浅間大社遺跡 2. 大宮城跡 3. 沢東A遺跡 4. 中橋・中ノ坪遺跡 5. 伊勢塚古墳 6. 東平遺跡 7. 中原4号墳 8. 横沢古墳  
 9. 東平1号墳 10. 国久保古墳 11. 実円寺西1号墳 12. 冲田遺跡 13. 宇東川遺跡 14. 天神塚古墳 15. 寺屋敷古墳  
 16. 千人塚古墳 17. 宮添遺跡 18. コーカン畑遺跡 19. 三新田遺跡 20. 柏原遺跡 21. 山の神古墳

図7 郡家設置前段階の潤井川流域周辺の景観（藤村 2014a より）



A. 伝法古墳群 B. 岩淵・木島古墳群  
 1. 大宮城跡 2. 泉遺跡 3. 上石敷遺跡 4. 中野遺跡 5. 中野石切場遺跡 6. 破魔射場遺跡 7. 天間代山遺跡 8. 沢東A遺跡  
 9. 中橋・中ノ坪遺跡 10. 東平遺跡 (西平1号墳を含む) 11. 滝下遺跡 12. 一色D-35号墳 13. 舟久保遺跡 14. 冲田遺跡 15. 宇東川遺跡  
 16. 御宣ノ前遺跡 17. 宮添遺跡 18. コーカン畑遺跡 19. 三新田遺跡 20. 柏原遺跡

図8 奈良時代～平安時代初頭の富士郡景観（藤村 2014a より）

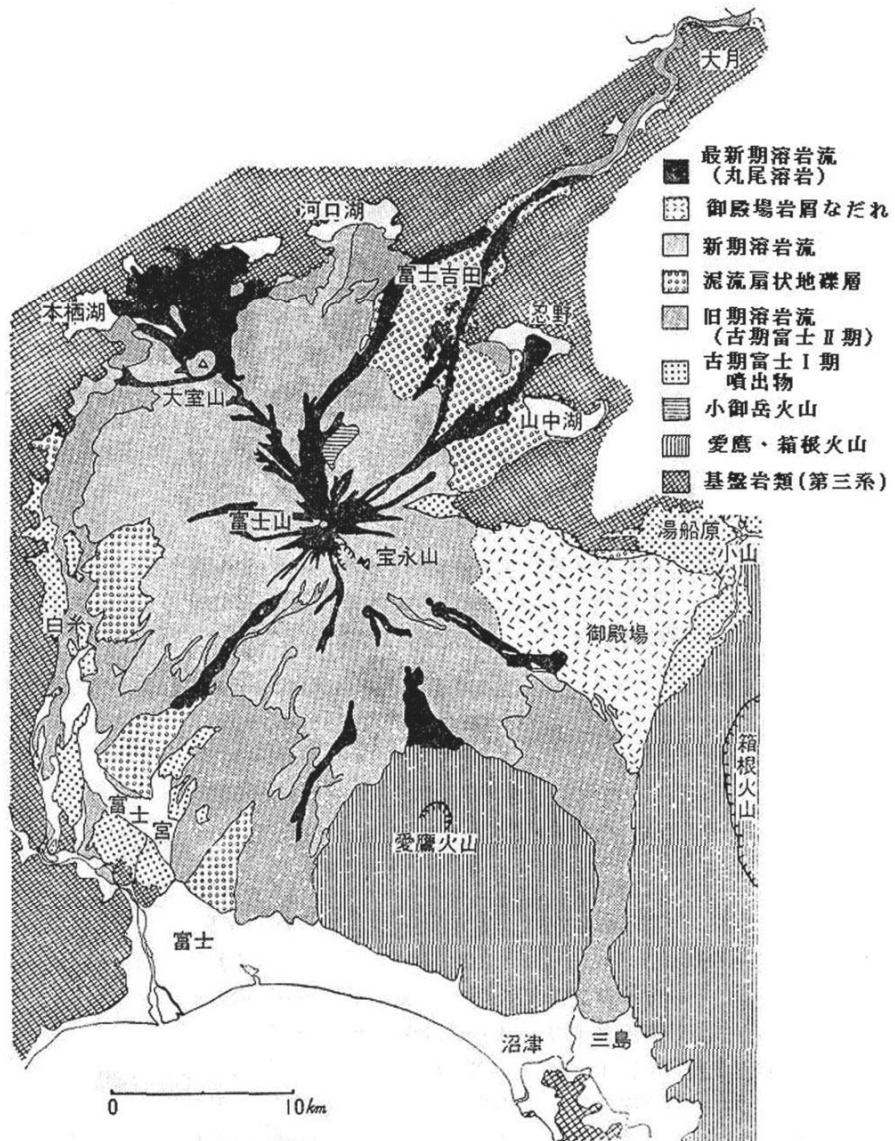


図9 富士山の地質略図（町田 1977 原図・町田 2007 より）

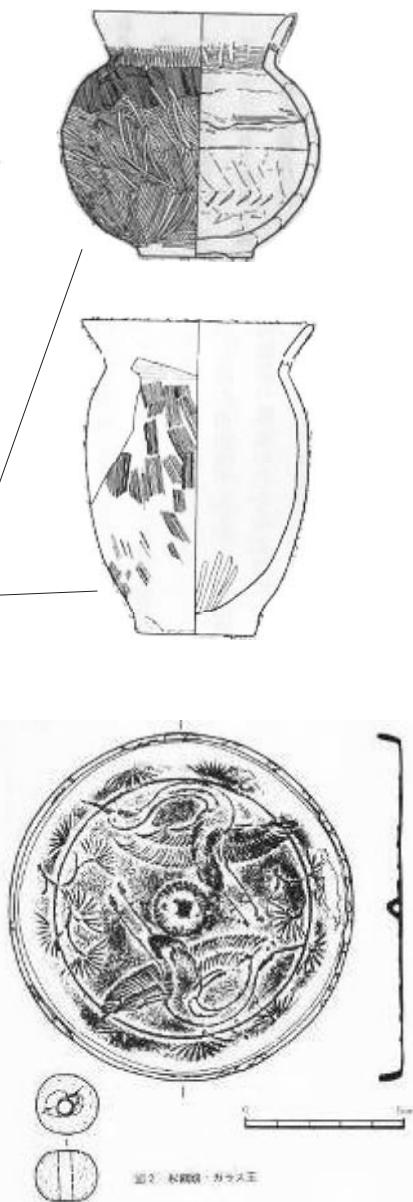
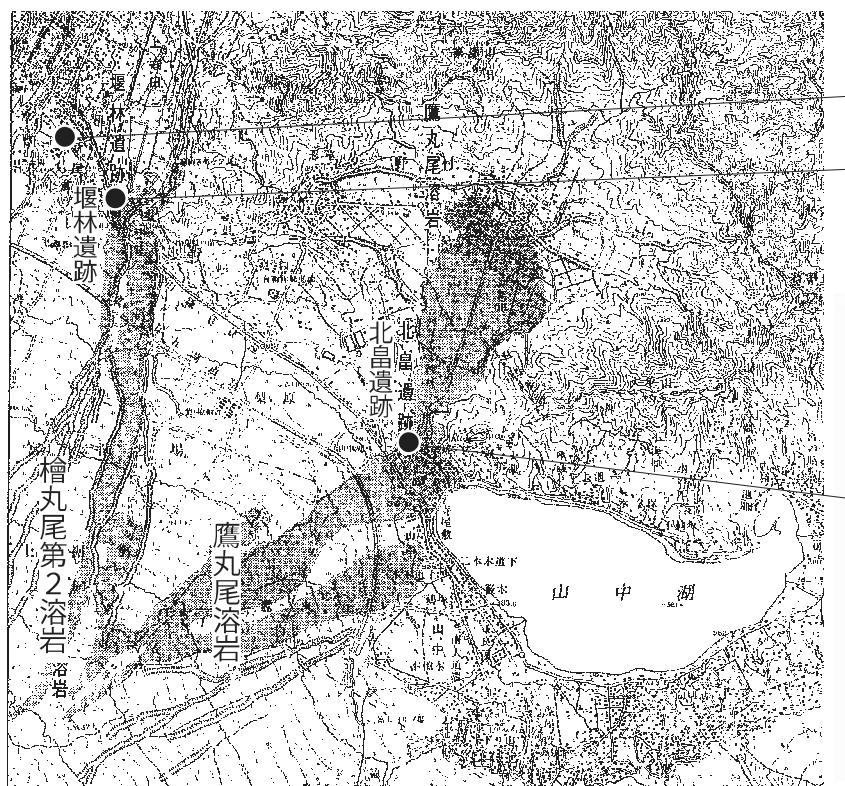


図10 延歴の噴火関連溶岩と溶岩直下出土遺物（末木 1998・檜原 1995 に加筆）

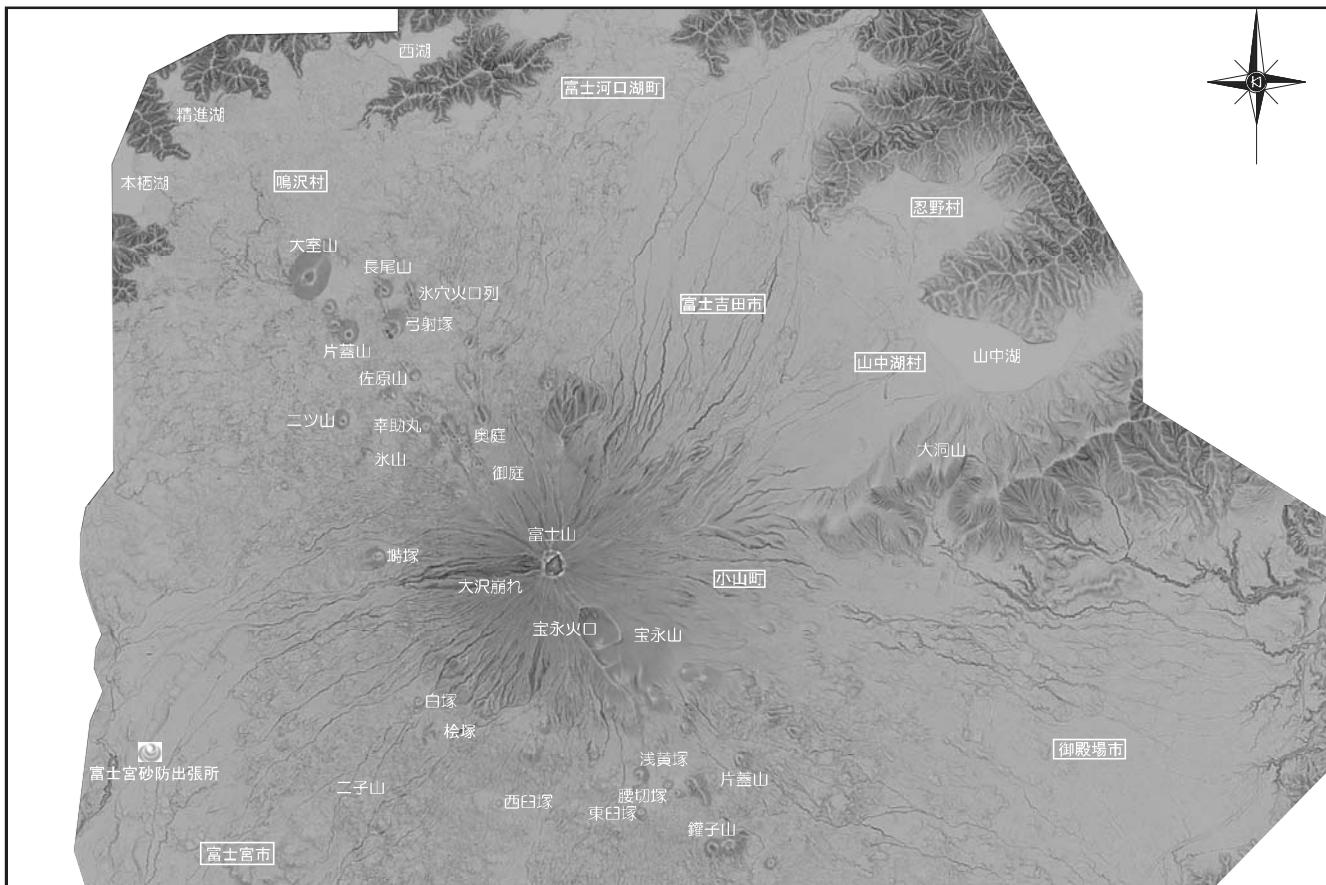


図 11 富士山周辺の赤色立体地図（富士砂防事務所ホームページより）

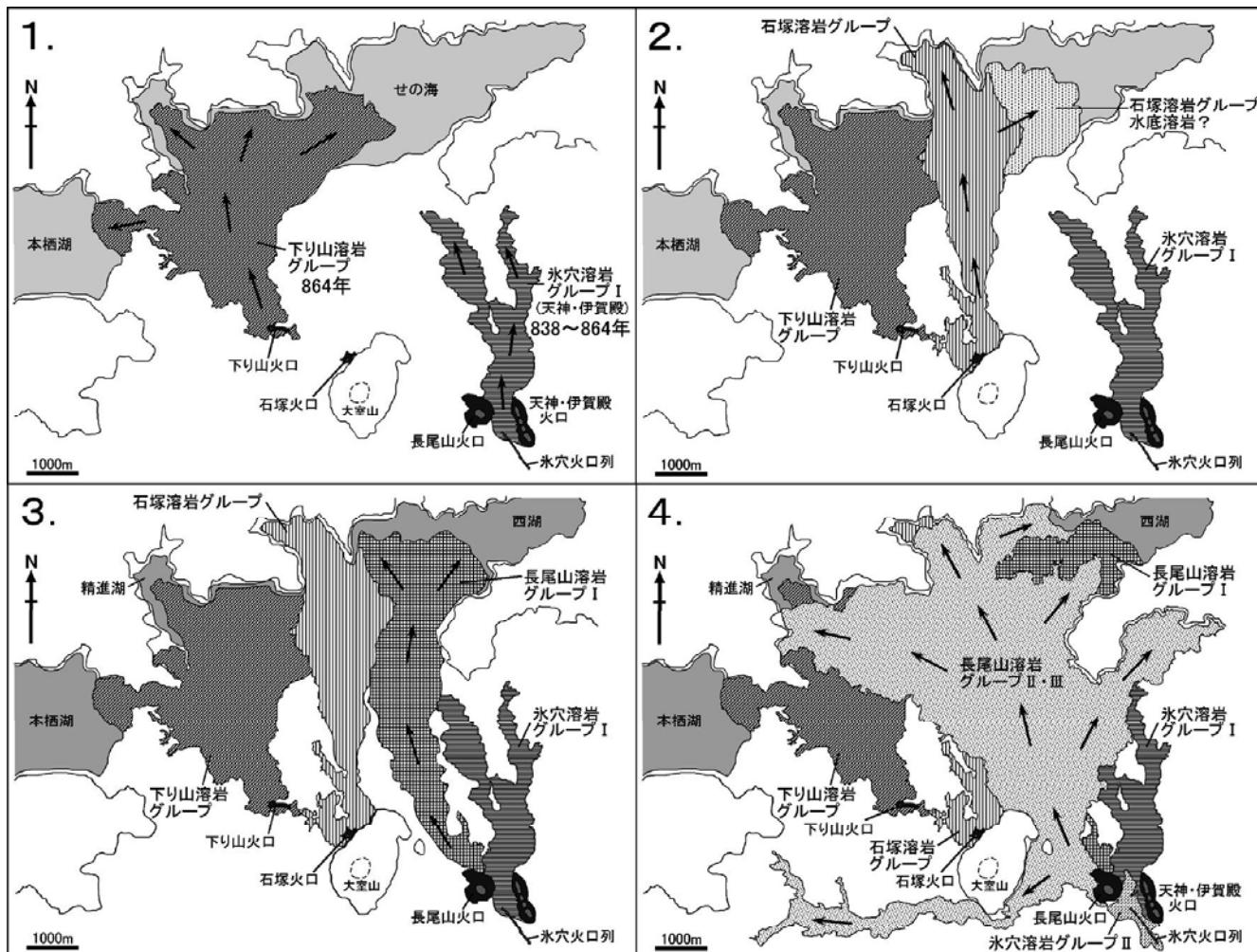


図 12 青木ヶ原溶岩の形成過程（高橋ほか 2007 より）

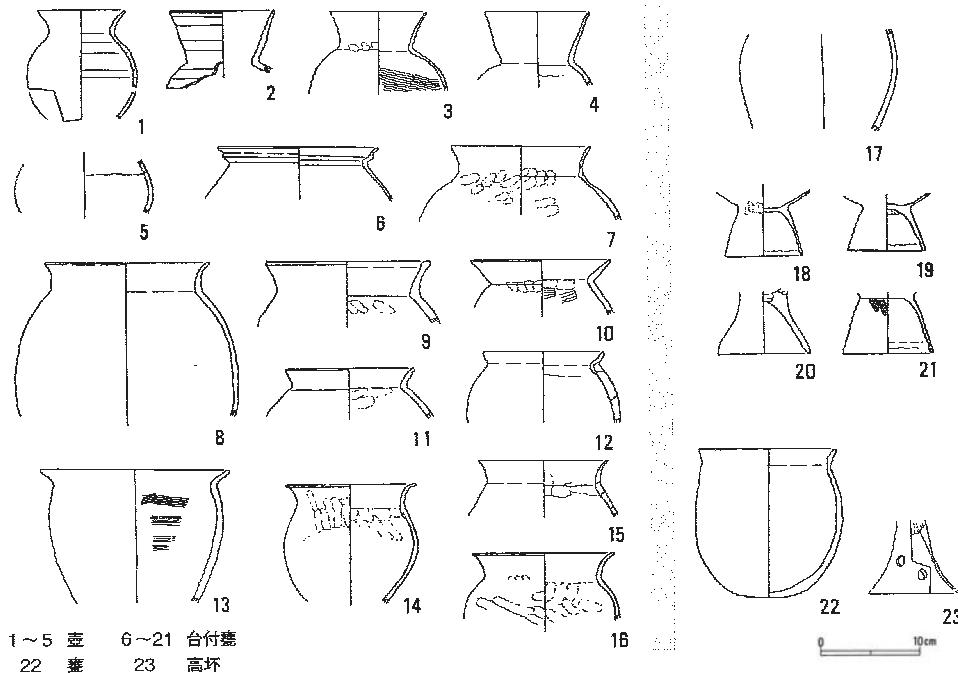


図 13 上九一色村・本栖湖湖底遺跡

(左下) と出土土器 (左上)

(田代 1998 より)

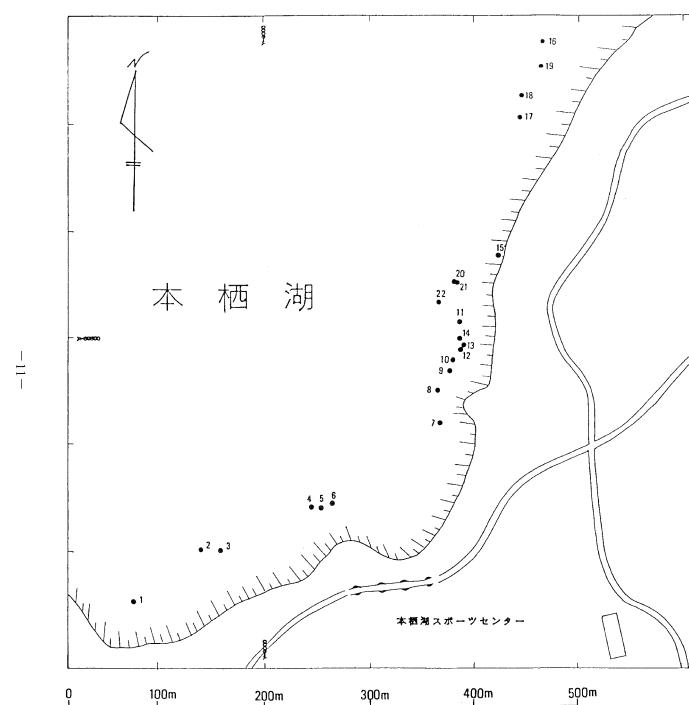


図 14 上九一色村・上野原遺跡出土土器 (

田代 1998 より)

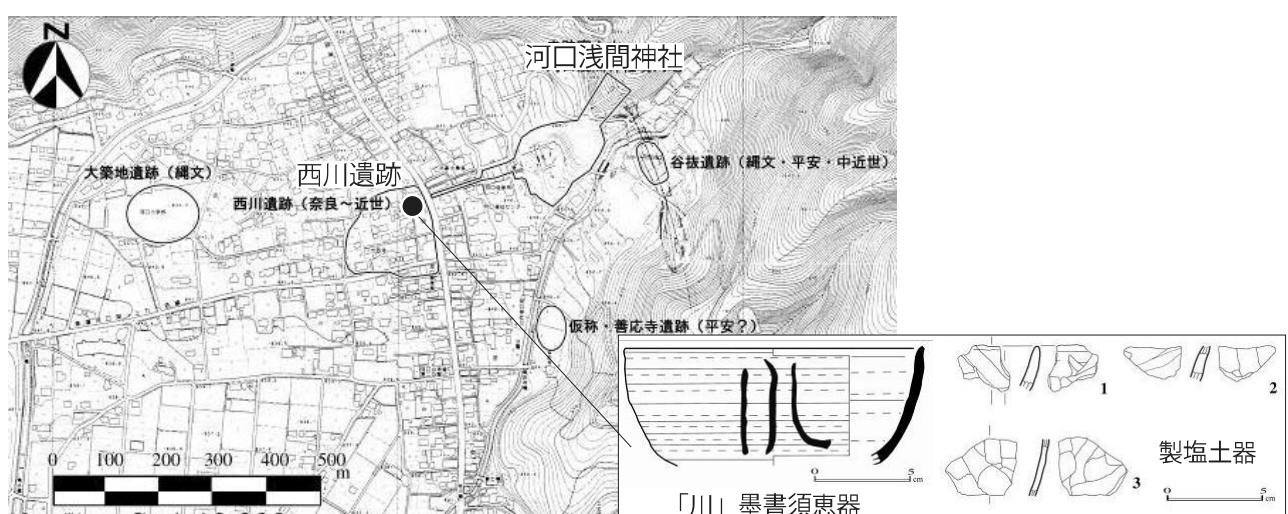


図 15 富士河口湖町・西川遺跡 (杉本 2013 に加筆)

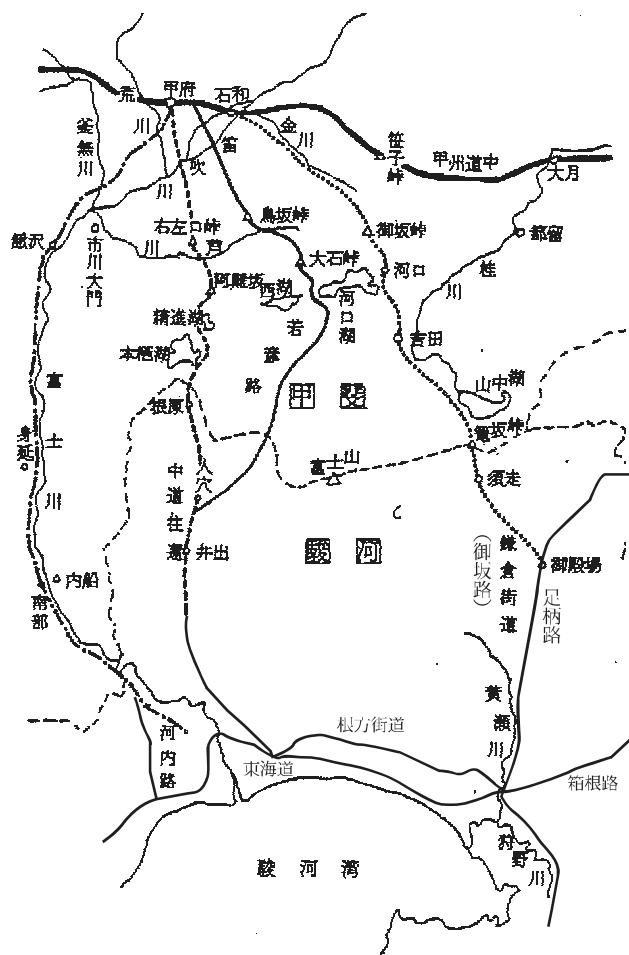


図 16 富士山周辺の街道（末木 2007 に加筆）

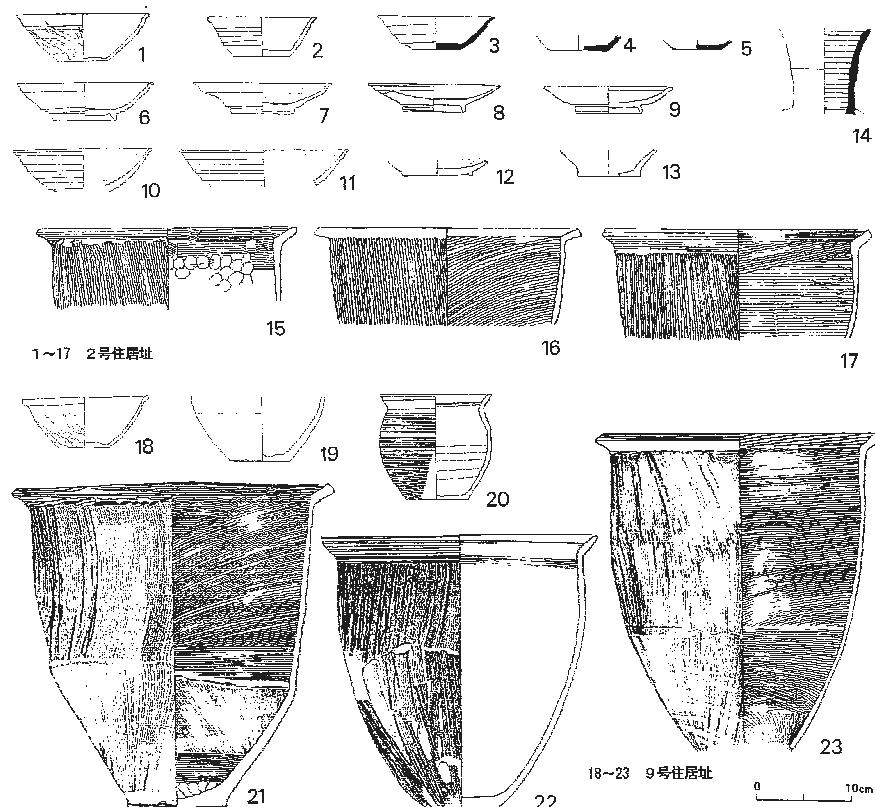


図 17 浅間林遺跡出土の土器（田尾 2008 より）

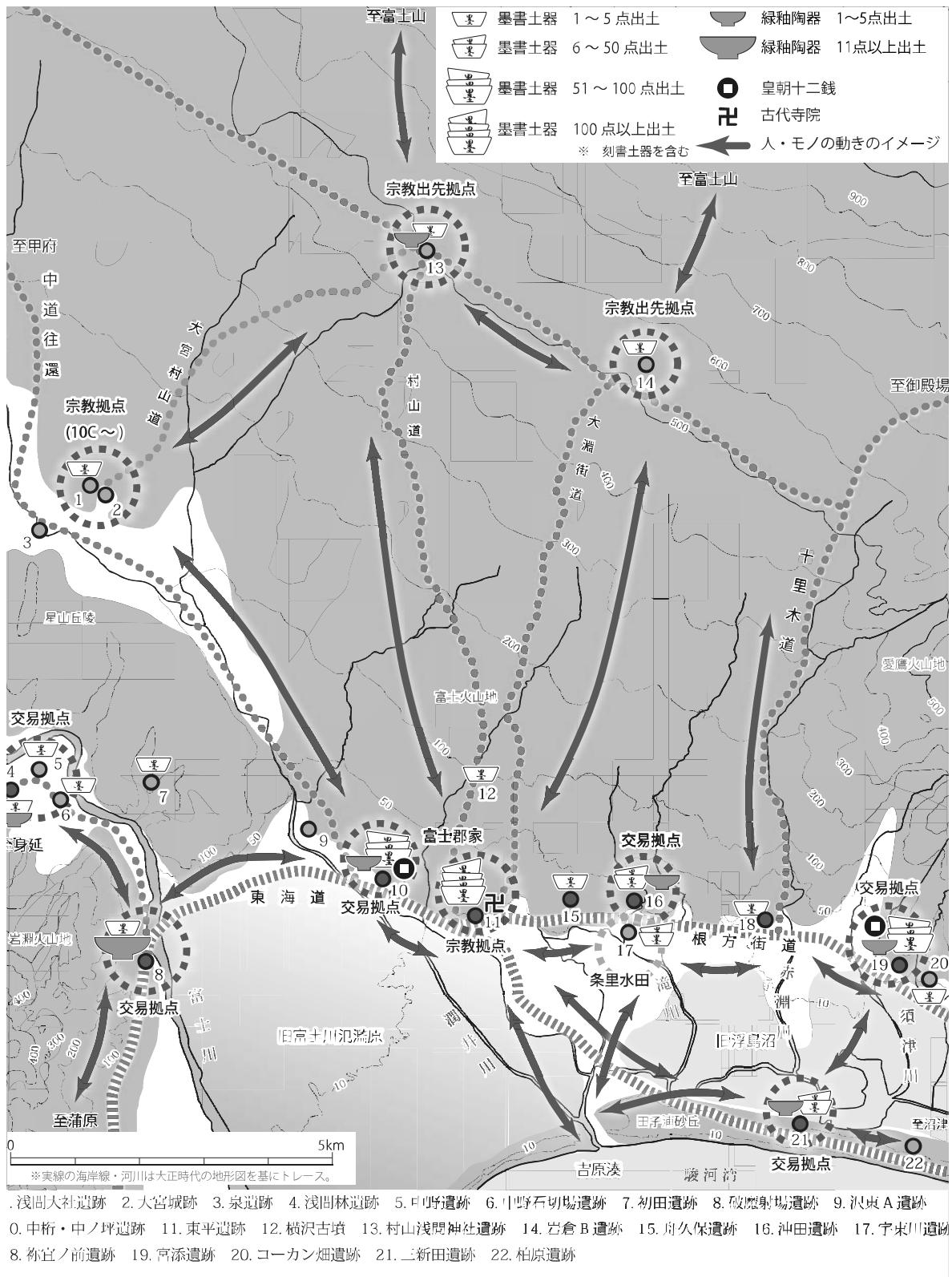
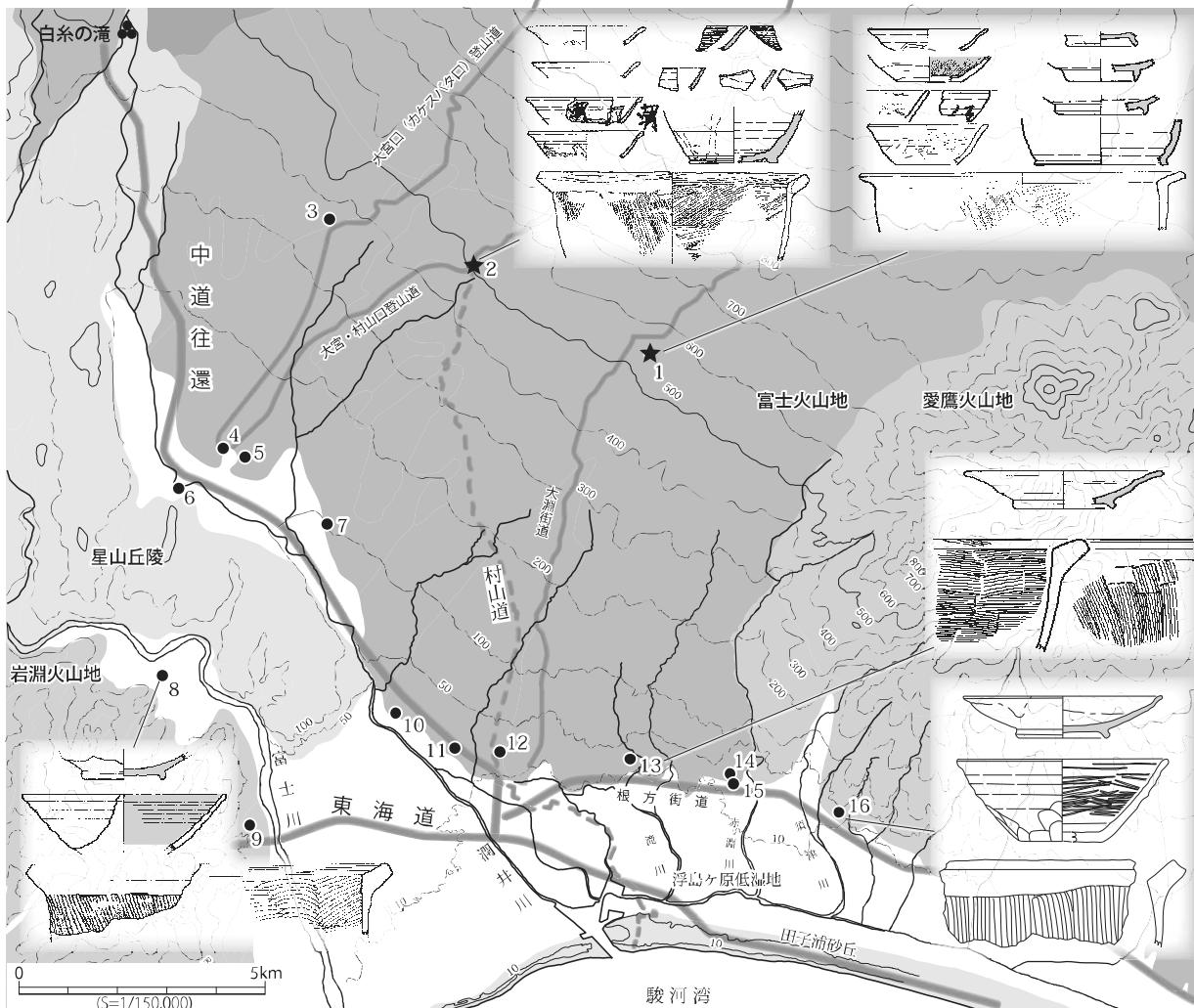


図 18 平安時代前期～中期の富士郡景観（藤村 2014a に加筆）



1. 岩倉B遺跡 2. 村山浅間神社遺跡 3. 山宮浅間神社遺跡 4. 浅間大社遺跡 5. 大宮城跡 6. 泉遺跡 7. 石敷遺跡 8. 浅間林遺跡  
9. 破魔射場遺跡 10. 沢東A遺跡 11. 中杼・中ノ坪遺跡 12. 東平遺跡 13. 丹波川遺跡 14. 伏王寺経塚 15. 郡宜ノ前遺跡 16. 宮添遺跡

※ 地図中の「路」は、以下の文献および文献中の図を参考に作図した。図示した路は、中・近世以降に整備された街道であり、平安時代に存在したかについては明らかでない。

富士吉田市歴史民俗博物館 2002 企画展図録 「富士の信仰遺跡」富士吉田市教育委員会

山梨県立博物館 2008 「山梨県立博物館調査・研究報告2 古代の交易と道 研究報告書」

高崎操八 2009 「富士山村古道を歩く(田子の浦～村山古道～富士山頂)」NPO法人シニア大樂 山樂カレッジ

図 19 9世紀後半以降の信仰の道と外来土器（佐藤・藤村 2013 より）